

# 市長への手紙回答

9月の市民提案月間に伴い実施されました「市長への手紙」に、56通が寄せられました。  
市民の皆さんの意見やご提案を市長が拝見し、記名のあった手紙には、返事を送付しました。  
ここでは、いただいた手紙から、多数寄せられたもの、代表的なものを要約してご紹介します。

問 秘書・広報課(☎88-11114)

## 企業誘致について

若者の職場をつくるため、もっと企業誘致を進めてほしい。

企業誘致は、若者の定着(若者の職場をつくる)や将来を見越した税収確保、地域産業の活性化のために、欠かせないものと考えています。

全国的に競争が激化しており、大変難しいものがありますが、粘り強く企業訪問や会社調査などの活動を現在行っています。また、10月からは企業誘致プロジェクトマネージャーを専任において、成果を上げられるよう、県や市内進出企業、都市部に在住する市出身者などと連携・協力をしながら推進しているところでもあります。

若者の職場については、「市長とんでも語ろう会」などにおいて、「若者の働く場がない。」という声をよくお聞きしています。

## 道の駅について

道の駅を創設して農産物・特産品の販売や、恐竜、イベントなどの情報発信してほしい。

平成19年8月現在「道の駅」と呼ばれる施設は全国で868駅あり、県内には8駅が国道道沿いにあります。

市ではこれまでも、道の駅や直売施設について、「かつやま特産振興研究会」において議論してきました。その結果、このような施設は、農産物や特産品の販路拡大が期待できる施設ではあるものの、市内小売業者に影響が出る恐れがあることや道の駅の建設には国土交通省の設置要件があること、全国各地にある道の駅は十分に賑わって

しかし、実際に市内企業を訪問しますと、「若い人を募集しても思うように集まらない。」などといった求人求職のミスマッチを、代表者や人事担当者からよく伺います。

市内には、広報8月号でご紹介したように、誇れる技術を持った企業や元気な企業がたくさんあります。現在は、市民に対して、それらの企業の求人情報などを広く発信することにより、若者の雇用機会の拡大や定住化の促進を図れるよう取り組んでおり、今後も国の労働機関などと連携しながら推進していきたいと考えています。

## 新体育館の建設について

全日本大会や国際大会の開催可能な体育館を建設できないか。

現在の市営体育館は、昭和42年に福井国体バドミントン競技会場として建設され、昭和63年に県から勝山市に譲渡されたものです。

市営体育館は、県内にある体育館と比較しますと、規模、設備とも十分ではありません。新体育館建設には、国内外の各種大会もできるような規模や設備が必要だと思っています。

皆様から新体育館の建設要望が強いことは、重々認識していますので、建設時期や規模、場所など、意欲を持って取り組みたいと考えています。

いるところがある一方で、産地直売所の運営や提供するサービス水準が違いくずる、などという問題もあることが指摘されています。

従いまして、農産物や特産品などの生産者の意欲や現在ある直売所の体制など、様々な面で熟度を高めていく必要があります。これからは、この熟度を高める努力が必要になってきています。

今後は、中部縦貫自動車道の開通を見越したうえで、特産品などの販売や情報発信基地としての勝山「道の駅」の設置場所としてどこがふさわしいか、JAや商工団体なども十分に相談しながら進めていきます。

## 出産支援体制について

市内で出産できる病院がなくなつたが、若者が安心して子どもを産める環境をつくってほしい。

市内にある唯一の産婦人科において、出産ができない状況になったことは大変残念なことです。このため市長として、知事や国に要望するなど、最大限の努力をしてきました。

しかし、全国的に産婦人科医の絶対数が不足している状況にあり、直ちに医師を確保することは不可能でした。そのため、4月に「産婦人科医療連携体制」を構築しました。この体制は、妊婦さんが福井社会保険病院で健診を行うと、その詳細な情報が福井大学附属病院に送られ、同大学病院で高水準の医療体制のなか、安心して出産できるというものです。

この体制をサポートするため、市では「出産支援体制に係る交通費助成事業」を実施し、福井社会保険病院との連携体制に於ける市外医療機関(福大附属病院以外も可)で健診・出産するための交通費を助成しており、すでに10数人がこの制度を利用しています。

この連携体制のもと、大学病院で出産されたかたから「最初は不安だったけれど、何の心配もなく出産することができた。」という話を聞いています。今後も、この体制を周知すべく、広報などを通じてお知らせしたいと思えます。

## ファミリーセンターについて

外出するのにバスを利用していますが、もっと市街地の路線拡充してほしい。

市内のバス体系は勝山駅を中心に各地区へ延びています。「ミニシティバス」は、市街地の活性化、車の運転ができない高齢者や電車で勝山に來られた観光客が公共施設・医療機関などに行きやすくなる、などといった目的により運行しています。

勝山駅一サンブラザー社会保険病院間は、多くの人が利用するため、たくさんの方が運行しています。ただ、安全かつ定時運行の確保のため、細い道は通らずに幹線を通る現在のルートに

## 観光産業の発展について

市内観光地はもろろん、市街地への誘客を考えてほしい。

市内にある、スキージャム、県立恐竜博物館、国史跡白山平泉寺は、大手の旅行業者も認める第1級の観光スポットです。またこのほか、越前大仏、勝山城博物館に加え、四季折々の美しい自然と伝統行事があります。

これらの観光資源に年間120万人を超す観光客が訪れていますが、さらに観光により市民が恩恵を受けるようにするには、観光拠点の連携を図ることや観光客を市街地に呼び込むことが考えられます。

当市では今「まちづくり交付金事業」によるまちなか整備や勝山市旧機業場の整備など、ハード事業を行っています。旧機業場がオープンすれば、新たな観光拠点となり、これをまちなか観光の起点として、市街地に観光客を呼び込むことができると考えています。また、新たなソフト事業としては、11月から観光客の交流・休憩の場となる「まちの駅」事業が本町を中心にスタートしました。

今年、大手旅行業者の観光アドバイザーの指導を受けながら、重要な政策課題である観光振興に取り組んでいるところです。

なっています。

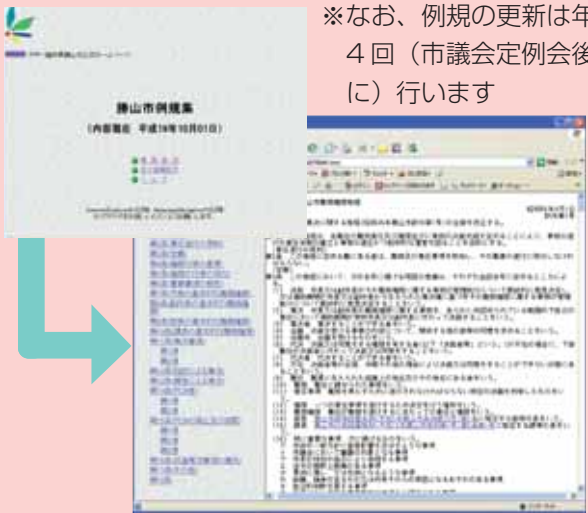
路線の見直しは、地域のニーズが変わっていくこともあり、「勝山市地域公共交通会議」において毎年見直しの協議がされています。路線変更により便利になる人もいれば、不便になる人も出てくることから、利用者や地元の人に聞き取り調査を行い、総合的に協議して見直しを行っています。

道幅が狭く、冬場などは特に定時運行が難しいと思われる地域については、ジャンボタクシーを乗り入れるなど、いろいろと協議したいと考えています。

## 勝山市ホームページに例規集を公開しました

勝山市が制定する条例、規則、規程の各規定を12月3日からホームページで公開しています。体系別、50音別にそれぞれ検索できるようになっています。ぜひご利用ください。

※勝山市ホームページのトップページ右側にある便利メニュー中「勝山市例規集」をクリックすると画面が表示されます



※なお、例規の更新は年4回(市議会定例会後に)行います

問 総務課(☎88-1116)



## あじがとんがいらしました

### 福祉事業に100万円の寄付

12月5日、別田與重郎氏(芳野町2)から、「市内独居老人のかたがたのために、雪下ろし資金として役立ててほしい。」と、100万円の寄付がありました。寄付を受けた市健康福祉部長は、「ご意向に沿うよう使わせていただきます。ありがとうございました。」と、感謝の言葉を述べました。

別田氏の実父である故別田重雄氏は、生前、福井県議会議員を10期務め、長年に亘って支援をいただいた感謝の気持ちとして、何かしらの恩



健康福祉部長に寄付金を渡す別田與重郎氏(写真右)

返しを考えていたとのこと。そこで、亡実父の想いを汲んで、葬儀で頂戴した弔慰金の一部を福祉目的で使用してもらえよう、今回の寄付に至ったことでした。